

障がい者の「生きる」に寄り添うコミュニティケア

提供学科：看護学科、福祉総合学科

◎ 目的

本プロジェクトは、「地域との繋がりに乏しい」という課題の解消に向け、「生活クラブ風の村」の障害者福祉事業所5施設、千葉県アール・ブリュットセンターうみのもり事務局を運営する「株式会社いろだま」と協同し、障がいのある方々と地域の皆さまがアートを通して「つながる」ことを目的とした活動です。

本年度は、第3回となる『風のアール・ブリュット × ココロ・ポリリズム III』（城西国際大学水田美術館にて）を開催し、地域共生社会の実現を目指し、障がいのある方の「生きる」に寄り添うコミュニティケアの実践を報告しました。



◎ 実施内容

「つながる」プロジェクトを実施

＜準備段階＞

- ・アール・ブリュット 制作課程の見学会の実施
- ・近隣の施設やお店などにポスター掲示依頼
- ・展示会で掲示するパネル、メッセージカード、制作過程動画の制作

＜当日＞

- ・来場者から頂いたメッセージカードを障がいのある方々へお届けする活動
- ・制作過程動画上映会の実施
- ・美術館と「つながる」ためのワークショップ開催

地域 × 城国生

◎ 学びの効果

学生たちは、制作の現場を見学することで、障がいのある方の「表現したい」という気持ちを尊重することや、バーバルコミュニケーションが困難な方に対する表情やしぐさ、目線などを通じたコミュニケーションの必要性、表現できる工夫をすることで「つながる」ことが可能になることを学ぶことができました。本年度の学生が関わった展示会（6日間）に550名以上の方がお越しいただきました。多くの方にご来場いただけたこと、そして丁寧に展示された作品をご覧いただけたことで、学生たちは、当事者だけでなくご家族や施設スタッフとも大きな喜びを共有でき、アートを通して地域と「つながる」ことを支援することで、家族ケアや支援者ケアにもつながるのだということを学びました。また、地域の方々から「作品から元気をもらいました」「温かい気持ちになりました」などの声を聞き、アートを通じた生を感じることができました。